

○市長（染谷絹代） 皆様、ありがとうございます。最後にまとめて講評するつもりが、一人一人の講評になってしまった部分もあって、また、お答えできない部分もあったこと、申しわけなく思います。

私は、今日も皆さん方が初めて登壇される方だとは思えない、まさに傍聴者の皆さん方がすごいなど感心して聞いておられたのではないかと、そういう説得力のある御質問をいただいたということに改めて敬意を表し、また、皆様方、今日のためにいろいろ御準備していただいたこと、心からうれしく、また、ありがたく思います。

そして、今日お話したこと、御提案いただいたことの幾つかは、やはり私にとって大きな示唆を与えていただけることでもありましたし、中には、しっかりとすぐに今日午後にも指示をしないといけないと思ったこともありました。指示をしなければいけないというのは、私どもは、いろいろな情報をたくさん発信していますから、伝えたいと思っているのです。だけれども、情報というのは、伝えたのではなくて、きちんと伝わったかどうかというところの確認をしないと、これは本当に必要な人のところに必要な情報が届きません。必要な方に必要な情報を届けるために、例えば、災害時であれば、危機管理部のほうから一人一人の自治会長68人全部にそのたびごとに電話をして、状況を説明して、その地域のこともお話をさせていただいています。やはりそうしたその情報を必要とする人のところには特別その情報が届くような、そういった気配りあるいは方法を行政がとっていかなければならないということも今日改めてまた感じた次第でもありました。

また、もう一つは、答弁の中で、市がこんなことをやっていますということのいろいろと、例えば、介護の問題でありますとか、コミバスのことでもありますとか、情報をお伝える、市の施策を知っていただくよい機会になったということも感

じております。

そして、先ほどは、島田に根っこを生やした人材を育てなければいけないのだというお話をしましたけれども、島田市は今、市内に5つ高校がございまして、その5つの高校と全て連携協定を結んでおります。市のさまざまなまち・ひと・しごととの会議に高校生に委員として加わっていただいたり、あるいはスマホのアプリの制作を島商の皆さんにお願いしたり、あるいは島田工業の皆さんには、市役所だとか、あるいは建物の模型を実物の30分の1とかでつくっていただいたり、そんなこともしております、まさにこのまちのまちづくりにかかわるということを高校生のうちに体験していただきたい。それがまちに根っこを生やす人の人材の育成につながると思ってやっているとところです。

また、最近では、スマホのアプリで、高校生向けにお仕事ラボというものを、高校生と進学している大学生向けにやっております。うるさくない程度、月数回、島田市の就職の情報でありますとか、島田で就職をしている高校生や大卒の方々の現地レポート、少し先行く先輩が我が社を紹介するというようなことも、毎回続けているところであります。

皆様方の御意見もいただきながら、ありとあらゆる手段を講じながら、この島田のまちが若い人たちにとっても魅力的なまちだと言っていただけるまちになるように、これは渋谷と同じまちをつくるのが島田を活性化することではないと思っています。私はむしろもっとローカルに、ローカルの魅力を発見してこそ島田の魅力が発信できるし、そこに首都圏から、あるいはほかの地方からの人を呼び込めると考えておりますので、そうした考え方の転換というものも、市民とともに図っていかなければならないと思っています。

これからのまちづくりには、皆様方のお力添えがぜひとも必要でございますので、今後とも市政

に関心を持って、またお声を届けていただければ
と思います。

雑駁ではありますが、きょうの感想を皆様にお
伝えをさせていただきました。ありがとうございました。